

京築ヒノキ名刺入れ 伊へ

福岡県京築地域の特産ヒノキを素材にした商品開発に取り組む大学生らのプロジェクト「ちくらす」が4月17〜22日、イタリアであるデザインの世界祭典「ミラノデザインウィーク」に、名刺入れを出展する。期間中、100万人でにぎわう会場で若者目線の自信作をアピールし、京築ヒノキのブランド化を目指す。

西工大と西南女学院大生製作

福岡県行橋農林事務所(同県行橋市)によると、京築ヒノキは中心部が赤く、つやがあり年輪幅が狭いのが特徴。2年前に始まったプロジェクトには、西日本工業大(同県刈田町、北九州市小倉北区)の石垣充教授(48)と、西南女学院大(同区)の高橋幸夫准教授(59)の両ゼミ生約20人が参加している。

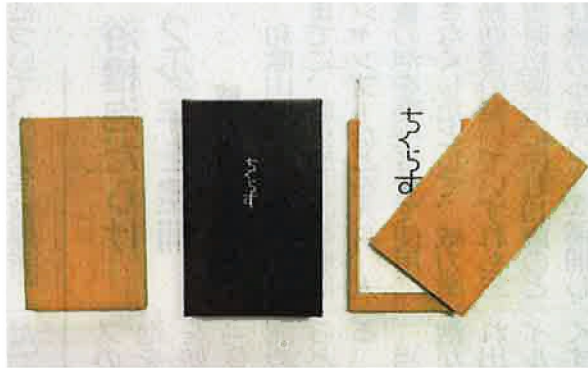
名刺入れは、西南女学院大生が福岡市などで行った市場調査を基に、西工大生が試作品を手掛けた。厚さは計9ミリで、縦約10センチ、横約7センチの2枚の板材を重ね、四隅の一角を基点にスライドさせて開閉する。表面には北九州市の伝

4月、ミラノ展示会に出品

統一芸「小倉織」や皮を用いる案が出ており、10パターン程度を用意する。

「ちくらす」は「京築のヒノキとくらすプロジェクト」の略称で、これまでに京築ヒノキ素材のノートカバーなどを試作した。高橋准教授と石垣教授は「今回の出展をきっかけに、海外でのPRに継続して取り組みたい」と話す。

2016年度福岡県農林水産白書などによると、県内のヒノキの原木生産量は3万2千立方メートル。このうち行橋農林事務所管内(行橋市など2市5町)の生産量は約1万立方メートル。(佐伯浩之)



①「ミラノデザインウィーク」に出展予定の名刺入れ
②出展作品について検討する西日本工業大と西南女学院大の学生たち
＝昨年12月、北九州市小倉北区の西工大の室町キャンパス